

第5次佐倉市総合計画策定に当たっての
市民意見交換会 報告書



平成 30 年 11 月
佐倉市

【 はじめに 】

佐倉市は、昭和 49 年度の第 1 次佐倉市総合計画策定以来、歴史、自然、文化に恵まれた地域性に重きを置きながら、まちづくりを行ってきました。平成 23 年度に開始した第 4 次佐倉市総合計画において、佐倉市は、『歴史 自然 文化のまち ～「佐倉」への思いをかたち～』を将来都市像に掲げ、市民一人ひとりの「佐倉への思い」がかたちになるような取組を進めています。

平成 32 年度からの第 5 次佐倉市総合計画を策定していくにあたり、第 4 次佐倉市総合計画の期間で市民の意識がどのように変遷し、今後まちづくりにおいて行政が担うべき役割をあらためて問い直す必要があります。

そのため、「市民にとっての幸せとは何か」、「市民と行政はのために何をすべきなのか」を市民とともに考え、市政に活かしていくことを目的に市民意見交換会を開催しました。

■実施日時・会場

参加希望者に会場（佐倉・志津）を選択いただき、第 1 回と第 2 回両方、又は片方に参加いただきました。各会場の実施内容は同じです。

第 1 回：平成 30 年 8 月 19 日（日）

○佐倉会場：佐倉市役所社会福祉センター 3 階会議室（13:45～16:00）

○志津会場：志津公民館 2 階会議室（9:45～12:00）

第 2 回：平成 30 年 9 月 22 日（土）

○佐倉会場：佐倉市役所社会福祉センター 3 階会議室（9:45～12:00）

○志津会場：志津公民館 2 階会議室（13:45～16:00）

■参加人数

（単位：人）

	参加人数	性別		年代別					
		男	女	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
佐倉①	17	10	7	1	2	2	1	8	3
佐倉②	13	6	7	1	2	2	1	5	2
志津①	15	11	4		1		5	4	5
志津②	15	12	3		1	1	4	4	5
計	60	39	21	2	6	5	11	21	15

※延べ人数にて表記。

【 ワークショップの手法 】

参加いただいた市民の皆さまを3～4グループに分け、第1回は「幸せとは何か、地域の住みよさとは何か」、第2回は第1回の内容を踏まえた上で、「幸せを実現するために、市民、地域、行政それぞれがすべきことは何か」をテーマとして、ワークショップ方式で意見交換を行いました。

■ ワークショップの基本的な流れ

① カード記入

与えられたテーマについて、自分の意見、思いをカード（付せん）に記入します。

記述された内容について、現在実現されていないことや、自分だけでは実現できないことについては目印をつけます。

② カード並べ

グループごとに、みんなが書いたカードを模造紙上に並べ、同じような内容のものを集めたり、全体の関係性を話し合ったりしながら、分類・とりまとめ方法を考えます。

③ 成果のとりまとめ

色マジックなどを活用しながら、分類したカード群に見出し（タイトル）をつけたり、補足説明を書いたりして、みんなの意見を模造紙上で整理し、とりまとめ、最後にグループごとに発表します。



【 第 1 回、第 2 回の内容 】

■第 1 回（8 月 19 日）の内容

テーマ	内 容
幸せ、地域の住みよさ についての意見交換	① 開会
	② 担当課あいさつ（市の状況説明）
	③ ワークショップの進行説明
	④ 自己紹介 9 マスに区切った用紙に、自分を紹介するキーワードを記入したうえで、自己紹介を行う
	⑤ カード記入 「自分の幸せ、家族の幸せ、地域の住みよさについて」
	⑥ カード読み上げ、カード並べ（グループ化）、自由討論
	⑦ 取りまとめ
	⑧ 発表（1 グループ 5 分）
	⑨ まとめ、閉会あいさつ

■第 2 回（9 月 22 日）の内容

テーマ	内 容
幸せを実現するために それぞれができること についての意見交換	① 開会
	② 担当課あいさつ（市の状況説明）
	③ ワークショップの進行説明
	④ 自己紹介 自分についてのキーワードをひとつ、「実は私、〇〇なんです」にあてはめ自己紹介を行う
	⑤ カード記入 「幸せの実現のために市民、行政等それぞれができることについて」
	⑥ カード読み上げ、カード並べ（グループ化）、自由討論
	⑦ 取りまとめ
	⑧ 発表（1 グループ 5 分）
	⑨ まとめ、閉会あいさつ

意見要旨



※以下の取りまとめにおいては、付せんに書いていただいた内容や発表を、趣旨を踏まえ適宜要約しているため、実際の記述・発言とは若干異なります。

【志津会場；第1回】

A 班

全体的な意見

●健康が大切。

・・・長生きするだけではなく、健康寿命も重要。そのためには家族で支え合う気持ちが重要。また、少子高齢化という課題に対し、高齢者だけを支援対象とするのではなく、（たとえば老人福祉施設と保育施設を併設するような）複合的な事業の検討も必要。

●生きがいが大切。

・・・高齢になっても、働きたい気持ちがあるうちは働きたい。それが生きがいになる。ボランティアでお互いに助け合ったり、運動したりすることも生きがいになる。子どもや孫たちとこのまちに住んで、その成長を見守ることが生きがいになる。

●住環境がよくなることが大切。

・・・交通アクセスがよくなるといい。公園や空き家などが整備されていることも重要。佐倉は歴史的な建物が多いので、大切に保全していきたい。

●安全で安心な暮らしができることが大切。

・・・佐倉は比較的災害が少ないが、もしもの時の対策は常日頃意識して備えたい。

●教育が充実していることが大切。

・・・学校教育、社会教育（図書館、公民館、市民カレッジなどを含む）が盛んになるといい。たとえば小布施町の図書館のような多様な展開を目指すのもいい。

●行政の取組のあり方を検討することが大切。

・・・人口減少で、市役所も職員が減ることが考えられるため、AI 技術を駆使して効率的な市役所にしていく必要がある。たとえば幸福度ランキング※を向上させるような取組が必要である。



※幸福度ランキング：多様な研究機関が、自治体単位のまちの住みよさなどを、独自の尺度で評価し順位づけしたもの。省庁で実施されているものは、都道府県単位のみ。また、評価する研究機関により、結果には差が見られる。

【 全 意 見 】

見方 太字 同意見が複数あったものを取りまとめたもの

○…自分の幸せ □…家族の幸せ ●…市が実現できる住みよさ ■…広域で実現する住みよさ

★健康

- ・健康寿命、健康で暮らす ○
- ・家族がみんな元気 □
- ・趣味や孫の成長など充実した生活 □
- ・食事 ○

★介護

- ・介護関係の充実 ●
- ・市民の健康づくりを推進 ●
- ・特別老人施設と保育所を併設するとよい ●

★人間・生きがい

- ・ボランティアなど人の役に立つこと ○
- ・家族が近居に住んでいて心強いこと □
- ・市民カレッジで気の合う仲間が増えたこと ○
- ・人とのコミュニケーション ○
- ・体育館でスポーツをしていること ○

★仕事

- ・元気に仕事ができること ○□
- ・家族や子どもを幸せにする □

★環境

- ・運転免許返納後の公共交通の便 ●
- ・成田空港へのアクセス ●
- ・公園の整備 ●
- ・自然環境の保全 ●
- ・きれいな街並み ●
- ・空き家の再利用 ●
- ・歴史的建造物の保全 ●

★安全

- ・安全で災害に強いまちであること ●
- ・物価が安い ●
- ・買い物が便利 ●
- ・助け合いができること ●

★教育

- ・よりよい教育 □■
- ・図書館の充実 ●■
- ・孫の成長 ○
- ・子育て環境がいいこと □
- ・学校の充実 ●
- ・生涯学習ができる環境 ■
- ・小布施町 ■

★行政

- ・市民と協働したまちづくり ●■
- ・A I で行政を見直す ●
- ・法人税の増収 ●
- ・行政改革（N P Oの見直し） ●
- ・人口問題への取組 ●
- ・リサイクル問題 ●
- ・幸福度ランキングを上げる ■
- ・平和 ■

B 班

全体的な意見

●買い物の利便が大切。

…アクセスの問題の改善や、お店の数などが確保されていることが重要。各公共施設へのアクセスも同様に、改善を検討する必要がある。

●佐倉市の自然を保全していくこと大切。

…自然や歴史的建造物などを大切に保全していきたい。たとえば、地域性の近い埼玉県川越市などの取組も参考になるのではないか。

●病気になったときは病院に安心してかかることが大切。

…健康でなくなったときこそ、まちの住みやすさが問われると思う。

●いまのまちの課題を解決していく仕組みづくりが大切。

…災害対策や空き家問題、成田空港に近いための外国人観光客や移住者との共生問題など、個人や地域の力だけでなく、市役所の力も結集して課題を解決していくことが重要。

●活発な意見交換ができる場をもっと充実できることが大切。

…少子高齢化やシティーセールスなど、佐倉市としてのグランドデザインを持たないといけない。そのために、こうした意見交換の場は重要。



【 全 意 見 】

見方 太字 同意見が複数あったものを取りまとめたもの

○…自分の幸せ □…家族の幸せ ●…市が実現できる住みよさ ■…広域で実現する住みよさ

★自然

- ・緑豊かな自然 ○●
- ・中学校区域ごとに魅力的な散歩コースが認定されていること ○
- ・生き物と触れ合えること ●
- ・ＴＶ番組に取り上げられるようなロケーションの提供 ■

★生活

- ・労働の意欲 ○
- ・買い物の便 ○
- ・防犯、治安対策 ■

★高齢化社会

- ・高齢者の買い物（安心な店舗、買い物ボランティア） ●
- ・高齢者のための居場所があること ○
- ・聞き取りやすい防災放送 ■
- ・少子高齢化対策全般 ■
- ・超高齢化のため、外国人労働者を増やすこと ■

★家族

- ・家族が円満であること ○
- ・家族と健康で楽しく暮らせること □
- ・健康であること ○
- ・安全にくらせること □
- ・家族の子育てを見守ること □
- ・子育てしやすいこと ●

★環境・交通

- ・交通の便、コミュニティバスなど ●■
- ・商業施設の充実 ●
- ・近場に家族で楽しめるレジャー施設があること □
- ・農地を自動車業者がゴミ置き場にしている ●
- ・高齢者や児童にも安全な道路 ●

★歴史・文化・教育

- ・長嶋茂雄記念館の設立 ■
- ・歴史的資産の有効活用 ■
- ・図書館など文化教育施設の拡充 ■
- ・佐倉市の特産品を作る ■
- ・スポーツジムの設立 ■
- ・なぜ佐倉市の全日制高校をなくすのか ■

★行政

- ・外国人も住みやすい街であること ●
- ・災害対策（避難所、災害用トイレなど） ●
- ・空き家対策 ●
- ・市民と連携したまちづくり ●
- ・午後５時の放送をルパン三世のテーマにする ■
- ・民泊の推進などインバウンド対策 ■
- ・佐倉市がネットで話題になるなど、イメージアップ ■

C 班

全体的な意見

●健康でいることが大切。

…身体 の健康のために、趣味や仲間との関係づくりなどの生きがいの充実も重要。

●交通アクセスの確保が大切。

…現状ではまだ十分とはいえない。移動や買い物などは重要な問題である。

●住環境が大切。

…豊かな自然を保全したい。きれいなまちをキープすればそれが防犯につながるのではないか。
みんなが地域で困りごとを話し合える場所が充実するといい。たとえば、ユーカリが丘はコミュニティの充実を考える上では好例だと思う。

●佐倉の強みである「歴史」をもっと押すことが大切。

…佐倉の良さを内外にもっと押し出していきたい。

●国全体の課題である少子高齢化をくいとめたい。

…国全体の問題だが、佐倉市も少子高齢化しているので、なんとかしたい。佐倉市で何ができるか、次回は具体的な解決方法を探りたい。

【 全 意 見 】

見方 太字 同意見が複数あったものを取りまとめたもの

○…自分の幸せ □…家族の幸せ ●…市が実現できる住みよさ ■…広域で実現する住みよさ

★趣味

・ピアノや家庭菜園など趣味の充実 ○ ・おいしいものを食べること ○

★健康

・健康であること ○ ・丈夫な身体 ○

★仲間

・地域の縁 ○ ・仲間との繋がり ○ ・地域活動、コミュニティ活動の仲間 ○

★少子高齢化

・佐倉に多様な雇用を創出することで収入源が確保され生活向上が図れる ■
・少子高齢化対策が重要、人口増加を図れるよう空調、防犯カメラ、学区の見直しなどコミュニティの特性を生かしこれまでの施設やサービスを見直す ■
・100 年後を意識した施策 ■

★家族・子育て

- ・家族が健康であること ☐ ・家族が円満であること ☐
- ・子育てに困らないこと、仕事との両立 ☐
- ・家族を養う ☐ ・独立した子が戻らないことを前提にした今後の設計 ☐ ・嫁に行く ☐
- ・家族が増えること ☐ ・家族とのレジャー ☐ ・家族が近くに住んでいること ☐

★農業

- ・農業生産とつながりを持ちたい
- ・非耕作地の管理

★コミュニティ

- ・利用しやすい居場所 ●
- ・若い人が増え発展していくこと ●
- ・適度な付き合い ●
- ・困ったときに相談できる場 ●
- ・ユーカーが丘はコミュニティバランスや協力体制が取れている好例 ●
- ・周辺市町村との協力 ■
- ・まちに活力がない●

★生活・インフラ

- ・道路整備 ●
- ・交通の便がいいこと ●
- ・自動車がなくても生活しやすいこと ●
- ・道路が狭く入り組んでいるので将来的に改善 ■
- ・ブロック塀を緑化する ●
- ・安全な学校施設 ●
- ・買い物が安く済むこと ☐
- ・外食 ☐
- ・病院が近い ●
- ・保育園に入りやすい ●

★環境・まちづくり・防犯

- ・みどりが豊かなまち ●
- ・治安が良く犯罪がないこと ●
- ・ごみのないまち ●
- ・空き家がないまち ●
- ・明るい街灯 ●

★歴史

- ・歴史の掘り起こし ○●
- ・城や山車といった文化財 ■
- ・郷土史がわかるような文化施設 ●
- ・P R できるような食文化の確立 ●
- ・もっと市をアピールしてほしい ●

★その他

- ・時間を大切にする ○
- ・戦争のない平和な暮らし ■
- ・お金で買えないもの ○



【佐倉会場】

A 班

全体的な意見

●住環境の充実が幸福や住みよさの中心。

●健康でいられることが大切。

・・・健康寿命が重要。医療施設のリスト化・周知や、介護タクシーの充実により、医療や介護にアクセスしやすい環境づくりができるとよい。

●安心なくらしができることが大切。

・・・治安のよい安全で安心な生活が送れる地域づくりが、住みよさにつながる。そのために、たとえば地域で人が集まり、気軽に悩みを共有できるような居場所づくりなどが重要。

●地域の魅力を活かしたまちづくりが大切。

・・・学校教育の充実だけでなく、佐倉のことについても学ぶ環境をさらに充実させる。また、地域固有の魅力を活かしたまちづくりも重要。

●「また戻ってきたくなるまち 佐倉市」に向けたまちづくり。



【 全 意 見 】

見方 太字 同意見が複数あったものを取りまとめたもの

○…自分の幸せ □…家族の幸せ ●…市が実現できる住みよさ ■…広域で実現する住みよさ

★交通

・電車やバス等、交通の便がいいこと ○● ・道路の整備 ●

★健康・高齢化

・健康寿命 ○ ・福祉の充実 ○ ・医療施設のリスト化 ○ ・介護タクシーの拡大 ○
・高齢者医療への対応 ○

★安心な暮らし・防犯

・治安がよく安全で安心な生活 □● ・よりよい病院、医療機関の整備 ○●
・利便性が高く楽しい施設があること ○
・様々な年代の人と交流できること ○ ・人が集まれる居場所づくり ●
・防犯対策のされた通学路 ● ・騒音対策 ●
・大人だけでも気軽に悩みを共有できる居場所づくり ● ・災害安全システムの構築 ●
・住まいの環境がいいこと ●

★教育

・よい教育を受けられること □ ・自慢できるような教育環境 ○ ・大学までの教育費の支援 □
・国際的で先進的な教育 ■

★生活・経済

・安定して働ける場所があること ○ ・経済的な安定 ○

★環境・自然

・自然豊かな公園 □ ・戻ってきたい（Ｕターン）と思わせる環境 □
・地産地消が身近に感じられること □

★魅力的なまちづくり

・ユニクロなど魅力的な商業店舗の誘致 □● ・季節ごとのイベント企画 ●
・科学館など体験型施設 ■ ・おしゃれなまちづくり ■
・リトルオランダのまちづくり ■ ・特産物のアピールができるような販売所 ■
・空地の活用 □ ・ボランティア活動が活発 ○
・参画体制の強化 ■

B 班

全体的な意見

●安心安全なまちづくりが大切。

…災害対策や、一人暮らしの高齢者のケアなどが重要。

●地域のつながりが大切。

…地域では、みんなが顔見知りになったらいい。肉親以外の「大人」が信頼できるまち。

●安全で美味しい水、食べ物の確保が大切。

●自然環境の保全が大切。

●子育てのしやすさが大切。

…子育て支援の充実が大切。たとえば草ぶえの丘などで子ども向けのイベントなどが充実するといい。学童保育が市全域で利用できるといい。

●文化、スポーツの充実が大切。

…映画館の誘致や図書館の充実により、文化の充実したまちになるといい。気軽にスポーツに親しめるまちになるといい。

●外国人との共生が大切。

…今後の大きなテーマだと思う。インバウンドだけでなく、移住者との共生を地域でも考えていく必要がある。

●ごみ回収(不燃物、ビン、カン、リサイクルなど)の充実が大切。

●まちづくりの充実が大切。

…こうしたワークショップを継続的に行い、市民参加型の行政を推進することが重要。



【 全 意 見 】

見方 太字 同意見が複数あったものを取りまとめたもの

○…自分の幸せ □…家族の幸せ ●…市が実現できる住みよさ ■…広域で実現する住みよさ

★地域のつながり

- ・良好な人間関係、近隣との付き合い ●○
- ・助け合いのできる関係づくり ●
- ・家族以外に信頼できる関係づくり ●
- ・お祭りなど地域を超えた交流 ●

★安心・安全

- ・高齢者も安心して暮らせること ●
- ・災害時に安否確認ができるような体制づくり○
- ・信頼できる医者がいること□

★食

- ・食べ物や水がおいしいこと ○
- ・安心な食生活を送れること □
- ・おいしい飲食店が近所にあること ○

★文化

- ・スポーツ施設やイベントの充実 ○
- ・音楽に親しめる教室やイベントの充実 □○
- ・いつでも映画が見られること ○
- ・利用しやすい図書館 ○
- ・気軽に出かけられる場所、施設がある □
- ・誰でも佐倉学を学べるような場所 ○

★多文化共生

- ・増加する外国人とのコミュニケーション ●
- ・外国人観光客の誘致 ■

★まちづくり・環境

- ・WSなど市民参加型の行政 ●
- ・きれいな自然を次世代に残すこと ■●
- ・佐倉市のイメージアップ、駅前にパチンコ屋などは△ ●
- ・渋滞のない道路整備 ■
- ・商業店舗の充実 ●
- ・ごみ対策 ●
- ・就労環境の充実 ○

★教育・子育て

- ・魅力ある公園づくり（駐車場完備、秘密基地など） □
- ・学校の選択肢が多いこと ■□
- ・草ぶえの丘など子ども向けイベントの充実 □
- ・子どもが多いこと ●
- ・子育て支援センターの魅力アップ ●
- ・教科書採択会議の公開 ●
- ・学童の一時保育をすべてのところで ●
- ・いじめがないこと □
- ・安心して子どもを産めること □

C班

全体的な意見

●(個人の幸せ)生きがいを持つことが大切。

・・・健康で、友達がたくさんいること。生きていくためのお金に困らないこと。美味しい食事が食べられる、といったことが生きがいにつながる。

●(家族の幸せ)生きがいを持ちことが大切。

・・・家族みんなが健康なのが幸せ。何かあったときはすぐに連絡を取り合える距離に住んでいて、つながっていることが大切。安全な住居に住めることがいい。病気になった時の救急医療体制がないのが、佐倉市の課題と考える。介護問題も家族の大きなテーマ。

●(地域の住みやすさ)つながりづくりが大切。

・・・交通の利便性の充実。自治会の担い手不足の問題もある。人口減少のなか、デジタル技術の有効活用を図る必要がある。地域の集いの場、遊び場が充実するとよい。地域活動の発表の場があるとよい。

●(大きなテーマ)行政にしかできないことを頑張ってほしい。

・・・誰もが、家族の団らんを実現できる、という意味での働き方改革。教育の充実。市役所を中心にペーパーレス化を図ってほしい。佐倉市が楽しく社会生活を送れる場であってほしい。



【 全 意 見 】

見方 太字 同意見が複数あったものを取りまとめたもの

○…自分の幸せ □…家族の幸せ ●…市が実現できる住みよさ ■…広域で実現する住みよさ

★生きがい・家族

- ・自分や家族の健康 ○□
- ・家族の仲がよく幸せであること □
- ・お金に困らないこと ○□
- ・趣味の充実 ○
- ・おいしい食事 ○
- ・生きがいのある生活 ○
- ・好奇心があること ○
- ・友人に恵まれていること ○
- ・他人とのコミュニケーション ○
- ・スポーツなどを楽しめること ○

★安心で便利なくらし

- ・コミュニティバスなど交通の便 ●■
- ・利用しやすい医療施設や緊急医療体制の整備 ●□
- ・福祉や介護の充実 ●□
- ・買い物のしやすさ ●
- ・安心で安全なくらし ●
- ・安全な住居 □
- ・道路整備 ●
- ・初乗りタクシー半額に ●
- ・駅のエレベーター設置 ●

★コミュニティ

- ・趣味やスポーツの場所、発表の場所づくり ●■
- ・負担の少ない自治会運営 ●
- ・回覧板の電子化 ●
- ・広場や遊び場の整備 ●
- ・公民館の予約をネットでも可能に ●
- ・地方税を下げる ●

★子育て・教育

- ・学校にエアコンを設置 ■
- ・子育てのしやすさ ●
- ・英語教育の充実 ●
- ・待機児童ゼロ ●
- ・教育環境の充実 ●

★行政

- ・高齢者への対策やサービス ■
- ・空き家対策 ●
- ・外国人家族も住みやすい環境 ●
- ・雇用の充実 ●
- ・年金の不安がなくなるような取組 ■
- ・高齢者の雇用促進 ■
- ・情報化の取組 ■
- ・A I 自動運転車の早期実現 ■
- ・総理大臣の直接選挙 ■
- ・戦争のない国 ■

D 班

全体的な意見

●健康が大切。

・・・健康の維持のためには、娯楽やイベントなどの生きがいとなるものを充実させることが重要。また、医療の充実も重要。

●安全な暮らしのためにはコミュニティが大切。

・・・家族の会話や地域でのあいさつが、地域のつながりにつながり、孤立を防ぐことにもつながる。

●教育が大切。

・・・読書ができる文化的な環境が充実していることは重要。学校施設にエアコンが十分に設置されていることが重要。

●経済振興が大切。

・・・工場誘致や観光ルートの整備（周遊バスなど）、歴博の魅力をPRすることなどに取り組み、地元事業者の経営安定にも取り組む。

●環境の整備が大切。

・・・自然環境を保全しながら、道路・交通については充実を図ることが重要。



【 全 意 見 】

見方 太字 同意見が複数あったものを取りまとめたもの

○…自分の幸せ □…家族の幸せ ●…市が実現できる住みよさ ■…広域で実現する住みよさ

★健康

- ・健康 ○□
- ・医療施設の充実 □
- ・医療介護保険制度の存続 ■
- ・娯楽やイベント ○

★安心で安全な暮らし

- ・防災や防犯の行き届いた安心で安全なまち □
- ・家族との会話 □
- ・孤立した人がいないこと ●
- ・空き家がないまち ●
- ・経済的な豊かさ □○
- ・挨拶のあるコミュニティ □
- ・いじめや暴力がないまち ●

★教育

- ・読書など文化的な環境がよいこと ○
- ・学校施設にエアコンが設置されていること □
- ・スポーツに親しめること □
- ・公共施設が充実していること ●
- ・大学と連携し市民が学べるようなりカレント教育 ○
- ・安全な学校 □
- ・子どもたちの教育環境がよいこと ●

★経済

- ・産地や農地の整備、活性化 ●■
- ・工場誘致など雇用の確保 ●
- ・買い物が簡単にできること ○
- ・ワークライフバランスがよいこと ■
- ・周遊バスなど観光資源のルート整備 ●
- ・公害対策 □
- ・地元企業や事業者の経営安定 ●
- ・歴博の魅力を世界へPRすること ■

★環境

- ・森林の整備など自然環境の保全 ○●
- ・景観の保護 ○
- ・駅前環境整備 ●
- ・転入者の増加するようなまちづくり ●
- ・交通の便 ●
- ・魅力ある公園の整備 ●
- ・ポイ捨てのないまち ●
- ・生き物と共生できるまち ●
- ・道路整備 ●

【第 1 回市民意見交換会を通じて】

志津会場

意見交換の中では、これまでの佐倉市の発展過程で買い物施設が周辺の市より早く充実してきたことや、自然環境や子育てのしやすさなどに惹かれて転入してきたことが触れられ、課題だけではなく現状の暮らしやすさを評価する声も聴くことができました。

昨年度の市民意識調査（アンケート）においては、市民の意識に若干の都市化傾向がみられたものの、本意見交換会においては、個人や家族の幸せとして、豊かな自然の中で家族といつまでも健康で暮らし続けることとする意見が多くみられました。本市のイメージが「緑豊かな郊外都市」であることに、大きな変化はないと感じられました。

また、地域の住みよさとして、自然や居住環境だけでなく、地域のつながりや相談し合える場の充実などコミュニティの維持・強化の視点による意見がみられました。加えて、いずれのグループの意見交換においても、行政だけでなく市民との協働によるまちづくりの視点がみられました。

こうしたことを踏まえ、佐倉市が首都圏の住みよい都市であるために、第 2 回においては市民と行政がそれぞれできること・連携して取り組むべきことを考えていきます。

佐倉会場

佐倉会場では、教育への言及が多くみられました。また、成田空港へのアクセスのよさを意識した意見や、外国人との共生の必要性を感じている意見も多くみられました。

教育については、全体的な教育環境の向上の他に、国際的な知識や英語教育の充実が必要とする意見があり、国内だけでなく広く世界を意識した教育のあり方を検討する必要性が感じられました。また、そうした視点の表れか、インバウンドの強化だけでなく、実際に外国居住者を受け入れる地域づくりについての意見もあり、今後外国人との共生のあり方を検討していくことも重要な視点と考えられます。

また、佐倉会場においても、地域のつながりや相談し合える場の充実などコミュニティの維持・強化の視点による意見が多くみられました。

こうしたことを踏まえ、佐倉市の今後のまちづくりに向け、第 2 回においては市民と行政がそれぞれできること・連携して取り組むべきことを考えていきます。

【志津会場；第2回】

A 班

主な意見

●自律的なコミュニティの確立

…ボランティアの推進による地域の助け合いも重要だが、地域における顔の見える関係性づくりに、市民・地域が取り組む必要がある。

●高齢者自身が外出し活動する仕組みづくり

…定年後の雇用や買い物支援など、高齢者自身が主体的に活動できるような取組が必要。

●地域と一体となった教育振興

…学校だけでなく、家庭や地域も一体となった教育のあり方を検討していく必要がある。

【全意見】

- 市民が（積極的に）できること ▲ 地域で協力してできること ■ 行政（市）ができること
- ◆ もっと大きな単位（県国）ができること

★地域等に関すること

（コミュニティ）

- ・地域で顔の見える付き合いをつくる ● ・近所の人と仲良く暮らす ●
- ・あいさつは自分から ●
- ・世代を超えた交流のしかけづくり ▲ ・孤立をなくす ▲
- ・居場所づくり ▲ ・子育てセンターとなりの喫茶店 ▲
- ・自治会館の開放性の向上 ▲ ・近所での交流を促す仕掛けづくり ▲
- ・ヒュッゲ活動、居心地のいい空間時間推進 ▲ ・空き地活用 ▲
- ・人に悪条件がのしかかってくるような構造が放置されている ▲
- ・まちづくり協議会等の助成増 ■ ・コミュニティセンター拡大 ■

★健康等に関すること

（健康づくり）

- ・農作業を通じた健康的な生活 ● ・健康でいるためのサポート、スポーツセンターなど参加 ●
- ・市のHPに健康になる料理のコーナーを作る ■ ・健康寿命延伸に向けたセーフティネット ■

（子育て支援）

- ・待機児童を解消すること ■

（高齢者福祉）

- ・健康寿命 100 年時代に元気で生きることを考える ● ・定年後の地元雇用の確保 ●
- ・定年後の雇用ができる事業 ▲ ・地域の買い物のお手伝いの仕組みづくり ▲
- ・生活支援 弱者への支援の少ない社会（が現状） ▲
- ・外出の促進 ■ ・介護日本一をめざす ■
- ・後継ぎがない中小企業の情報提供 ■

★環境等に関すること

（自然環境）

- ・環境保全 ●
- ・美化活動 ●
- ・公園、国道、印旛沼の美化・保全 ●
- ・電気を節約する街づくり ●
- ・ごみを出さない街づくり ●
- ・太陽光発電 ▲
- ・自然や居住環境保全のお手伝い ▲
- ・誰でもできる市民運動（テーマ掲示） ■

（住宅・住環境）

- ・空き家活用 ▲
- ・空き住宅問題 ■
- ・人口を増やすために市営住宅を考える ◆

★産業等に関すること

（農業）

- ・農業の振興 ▲
- ・農地の一般利用提供事業の立ち上げ ▲
- ・休耕地の再利用の促進 ■
- ・農地、借地等の手続の簡易化 ■

（商工業）

- ・空き店舗の活用 ■
- ・ベンチャー企業の誘致 サクラバレー ■

（観光）

- ・成田空港に近い街なので、国に予算貰ってインバウンドの推進 ◆

（雇用）

- ・地元で働きたい ●
- ・働きたい人と働き手がほしい人のマッチング事業 ▲

★教育等に関すること

（教育）

- ・地元の中高一貫校がほしい ●
- ・教育支援（家庭・地域・学校の連携） ●
- ・有名私立校の誘致 ■
- ・自立-自由、教育-本質 ■
- ・教育の質の向上、子育てについて安心感UP ■
- ・共同体への貢献、利他性についての教育 ■
- ・教育への予算倍にして（日本は先進国中最低） ◆
- ・幼児教育の無償化 ◆

（生涯学習）

- ・図書館を中心とした居心地のいいコミュニティ ▲
- ・生涯学習のスペースづくり ▲
- ・図書館をユーカリに作ってほしい ■

★まちづくり等に関すること

（都市計画）

- ・各地域で緑の街を作る協力をする ▲

（地域移動環境）

- ・ユーカリが丘に特急が止まるようにして ■

★その他

- ・行政の変革、ITやAI時代に対応 ■
- ・ケーブルTVが市民全体の人が見れたらいい ■
- ・15歳以下を増やす ■
- ・幸福度ランキングの向上 日本は54位◆
- ・佐倉市との友好都市との交流を盛んにする ■

主な意見

●市民の取組

・・・災害への対応は、市民一人ひとりが日ごろから危機意識を持つ必要がある。また、シティプロモーションに対して市民も自覚を持つことが重要で、たとえば長嶋茂雄記念館のような施設を大々的につくるような取組があれば、寄付など積極的に協力することが重要である。

●地域の取組

・・・ボランティアや防犯パトロールについては、地域の連携・参画が不可欠である。また、駅前開発や退職後の雇用の確保などについては、事業者と地域が連携して取組めることもあるのではないか。

●行政の取組

・・・佐倉市の交通環境に対する市民の課題感が大きく、コミュニティバスの適正運行や自転車でも安心な道路づくりを、市は検討する必要がある。また、地域のつながりや高齢者の外出にもつながるので、文化教養施設の拡充に取り組む必要がある。

●行政の取組

・・・佐倉市の交通環境に対する市民の課題感が大きく、コミュニティバスの適正運行や自転車でも安心な道路づくりを、市は検討する必要がある。また、地域のつながりや高齢者の外出にもつながるので、文化教養施設の拡充に取り組む必要がある。

●広域的な取組

・・・東葉高速鉄道の JR 佐倉駅、八街駅までの延伸に取り組み、市内外の移動利便の向上を図る必要がある。

【 全 意 見 】

- 市民が（積極的に）できること ▲ 地域で協力してできること ■ 行政（市）ができること
- ◆ もっと大きな単位（県国）ができること

★シティプロモーション等に関すること

- ・自然をＴＶに取り上げロケーションの提供 ●■ ・佐倉のロケーションボックスの設置 ●■
- ・長嶋茂雄記念館の設立のための寄付 ●
- ・長嶋茂雄記念館の設立、基金の設置 ■

★人口・福祉・行政に関すること

- ・少子高齢化 人口を増やす ■ ・子育てにやさしいまちづくり ■
- ・老人が安心なまちづくり ■ ・佐倉市の適正な医師数は人口増につながる ■
- ・税金の無駄遣いをなくす管理 ■

★産業・交通・環境に関すること

- ・ユーカリが丘駅前の開発 ▲
- ・産業誘致 ■ ・コミュニティバスの運行（ＪＲ-京成、佐倉駅など） ■
- ・自転車の危険性を感じる、坂道が怖い ■
- ・マンホールトイレなど災害用トイレ ■ ・防災災害対策 ■
- ・避難所周囲の下水道管の耐震化 ■
- ・京葉高速鉄道を、第二第三工業団地経由で八街まで開通させる ◆

★生活、教育に関すること

- ・定年を迎えても元気で過ごせるよう地域の皆と楽しんだりする●
- ・高齢者向け買い物ボランティアセンターの設置 ▲
- ・ボランティアや（地域の）話し合いができる場をつくる ▲ ・地域のつながり ▲
- ・お祭りなど地域のつながりをつくる ▲ ・防犯パトロールの充実 ▲
- ・公立教育の在り方見直し ■ ・文化教養施設の拡充 ■
- ・中学校区散歩コースに案内表示やベンチの設置 ■ ・空き家を活用 ■
- ・食や水の安全の維持 ■ ・民間のジムと市が協定するなどスポーツジムの普及 ■
- ・自然観察会の実施など自然や生きものを触れ合えること ■

C 班

主な意見

●人口減少対策

・・・人口減少・少子高齢化の進行に伴い、生産年齢人口の増加につながるような施策の推進が重要である。地域とも連携した子育て支援体制の充実や、地域の魅力や住みよさを発信するふるさと応援団づくりが必要である。

●市民への情報提供

・・・高齢化が進むことが予想され、見やすいホームページの検討も必要だが、高齢者にも届くような情報提供のあり方の検討が必要である。

●住みよいまちづくり

・・・草刈りやごみ拾い、防犯・防災活動には市民の協力は不可欠である。また、防災対策などにおいては、市民一人ひとりのみならず、地域における共助の体制作りが重要である。

【 全 意 見 】

- 市民が（積極的に）できること ▲ 地域で協力してできること ■ 行政（市）ができること
- ◆ もっと大きな単位（県国）ができること

★市民への情報発信等に関すること

- ・高齢者が多くなる時代、市民に適切に届く情報発信を ■ ・情報道の駅を作る ■
- ・情報を届けてもらう仕組み ■ ・市のポータルサイト、市民の交流 ■
- ・296 テレビは住民情報をもっとほしい ■
- ・議会報告をもっと市民に分かりやすくしてほしい ■

★市外への情報発信等に関すること

- ・特産品やB級グルメ ▲
- ・有名人からのP R（長嶋茂雄、BUMP OF CHICKEN） ■ ・魅力的なふるさと納税 ■
- ・ゆるキャラのかむろちゃんをもっとP R ■

★商業の活性化等に関すること

- ・商店会連合会の結束 ▲ ・大型店舗の活用 ▲
- ・町内会の活性化 ▲ ・商工会議所の活用 ▲
- ・空き店舗の活用 ▲ ・自治活動の活性化（自主自発を尊重し行政は邪魔をしないこと） ▲

★交通アクセス等に関すること

- ・J R 圏と京成圏のバス接続（の利便向上） ■ ・市内東西南北移動の利便向上 ■
- ・生活自転車道の整備 ■ ・円滑な交通に向けた信号配置（渋滞解消） ■

★人口減少対策等に関すること

- ・地域のあり方の見直し、接点はアクセスの見直しになる ■
- ・子育て世代の増加など生産年齢人口の増加（選ばれる街づくり、環境づくり、安心安全） ■
- ・少子高齢化対策（人口減少、消滅可能都市佐倉の改善） ■
- ・居住人口増加（税収増加、購買力増加、商業活性化支援） ■
- ・15～24歳の人口増（昼間の流動人口源となる大学誘致や空き家対策） ■
- ・卓越した魅力ある街（どうせ住むなら佐倉とか子育ての街とかキャッチ） ■
- ・都市マスター見直し（重点投資、公共施設昇一律投資はやめる、痛みを伴う施策でも実現させる勇気） ■
- ・雇用創出（二次三次産業拡大への支援） ■
- ・教育環境の改善（小中学校の施設、防犯） ■

★少子高齢化対策等に関すること

- ・ふるさと応援団 情報収集（雷電、桂小五郎）、情報発信、サポーターになる ●
- ・子育て支援（地域） ▲
- ・子育て支援（保育園の整備） ■ ・家を建てる時の助成 ■
- ・ふるさと応援団づくり（市内外に協力求める、労働や求人状況の情報まとめ） ■

★健康等に関すること

- ・健康維持のための自助努力（民生費圧縮、高齢者への手帳配布） ●
- ・積極的に外出 ● ・市民が市の健康診断を積極的に受ける ●
- ・安く通えるスポーツジムの誘致 ■ ・大きい病院がもう1、2個あるといい ■
- ・健康保険制度の維持 ◆

★住環境等に関すること

- ・近隣の草刈り ● ・定期的なごみ拾い ●
- ・安心安全、スクールガード、災害対策、自治活動の活発化 ●
- ・災害対策（共助の体制づくり、まち協、自治会、NPO への参加） ▲
- ・災害、避難時に市の放送が聞き取れない ■
- ・市の情報の放送が聞こえないので聞こえるようにしてほしい ■
- ・分煙など駅前整備 ■ ・道の駅の設置 ■
- ・公設市場の設置 ◆

★歴史・文化等に関すること

- ・観光のシンボルとして佐倉城 100 年計画寄付 ●
- ・歴史館や文化館を作ってもっと佐倉の歴史を市民に伝えてほしい ■ ・小中学校で市の歴史の教育 ■
- ・佐倉の宝とする歴史文化の活用を見直し投資して観光業に生かす方針 シティプロモーションの中核に ■
- ・観光のシンボルとして佐倉城 100 年計画 ■◆

★その他

- ・年金問題 ◆ ・AI センター、人型ロボット、自動運転車など未来づくり ◆

【佐倉会場】

A 班

主な意見

●市民にも開かれた行政運営

・・・市の抱える課題に対し、市民が積極的に意見を出すことができるように、市民参画手法の検討やまちづくりを積極的に検討・参加する佐倉グレードアップチームのようなものを結成し、参画メンバーを各地区から選出するなどの仕組みづくりが必要である。

●空き家対策などの都市計画の推進

・・・まちなみの維持のためにも空き家の効率的な活用は必要であり、空き家バンクなどを活用しながら推進していく必要がある。また、移住希望者のニーズにも迅速に対応できるよう、空き家情報の整備や宅地造成などを推進していく必要がある。

●地域活動への市民の積極的な参加

・・・ボランティアなどによる助け合いや見守り活動、またお祭りなどの行事は、市民の積極的な参加が不可欠である。

【全意見】

- 市民が（積極的に）できること ▲ 地域で協力してできること ■ 行政（市）ができること
- ◆ もっと大きな単位（県国）ができること

★行政運営等に関すること

（市民参画）

- ・市のテーマに対し市民参加方法を提示する ● ・（行政へ）想いを発信する ●
- ・各地から佐倉グレードアップ参画メンバーを選出する ●
- ・市長あての「おしゃれまち佐倉」づくりへの意見箱展開 ●
- ・佐倉が他市町村の先導役になる協力を行う ▲ ・意見を具現化する ▲
- ・各ジャンルに対しての勉強会やセミナーの開催 ▲ ・継続的に変化を伝える ▲
- ・自慢したいキーワードを公募する ■ ・市、市民すべてが「オシャレ」な提案をできるシステム推進を ■
- ・政府、国とのオランダ友好を強化、市民参加型イベントが必要 ◆ ・市→県→成功体験を増やす ◆

（地域資源の効率活用）

- ・（公共施設等の）利用頻度を増やす ●
- ・リソースの活用（ヒトモノ）法整備 ■ ・実現性を高める ■
- ・人気のスポーツ施設とプロチームの本拠地誘致 ■ ・料金体系の検討 ■
- ・大規模な遊休地のBIGテーマ（おしゃれな）の設定 ◆
- ・体験型博物館、技術館（メーカーとコラボ） ◆

★産業等に関すること

（農業）

- ・農作関係者からの特産品紹介＆市による拡大案の推進 ●
- ・おいしい佐倉の名物や食べ物の提案制度の実施 ●

（商工業）

- ・市民が参加したい施設や店舗の建設 ■
- ・助成金交付と参入障壁の緩和 ■
- ・有名ブランド店の誘致に市のプロジェクト発表と展開 ■

（観光・シティプロモーション）

- ・観光イベントの品質を高める（便益↑） ▲
- ・特産品を絞って販促 ▲
- ・特産品に興味を持ってもらえるような P R ■
- ・全国的に自慢できる P R の展開、予算投入 ■
- ・電通、博報堂との佐倉マーケティングの推進と進捗状況の公開 ■
- ・おしゃれなブランドの集約ビルの誘致 ■
- ・施設増設に対しての投資 ■

★環境等に関すること

（都市計画）

- ・都市開発（造成や移住者へのすばやい対応） ■
- ・古商家や古民家を一か所に集約したエリアづくり ■
- ・商業地域の店舗外観の統一 ■
- ・見通しが悪い場所に街灯を増やす ■

（住宅・住環境）

- ・空き家バンク（リフォームや購入の助成など移住者支援） ■
- ・空き家の効率的な使用をさらに増やす ■

（地域の移動環境）

- ・移動手段の多角化（バス、ウーバー） ▲
- ・介護タクシーやバスなど利便性の向上 ▲
- ・都内へのアクセス向上 ◆

（防災）

- ・避難場所の確認など災害時の備え ●

★生活等に関すること

（コミュニティ）

- ・ボランティア活動、子ども見守り隊、高齢者支援 ●
- ・ボランティアや住んでいる地域での市民参加 ●
- ・佐倉祭、市民とのコラボ（俳句提灯、絵提灯） ●
- ・「きれいな佐倉」へ住民周辺地の清掃義務化や常態化 ●
- ・佐倉市の祭りなどへの町内会も参加（対象外地区） ▲
- ・見回り、声掛けの強化 ▲

（食生活）

- ・フードバンク 佐倉市内で集配 ■
- ・子ども食堂（農生産者から規格外食品を市が支援） ■

（多文化共生）

- ・外国との交流機会を増やす ■

★その他

（郷土愛）

- ・自分の住んでいる地域を好きになること ●
- ・興味を持つ（オランダ） ●

B 班

主な意見

●AI 活用などによる効率的な行政運営

・・・人口減少にともない、行政においても人員及び業務の効率化を図る必要がある。その中で、AI を業務に取り入れることで、多様な分野における効率化を図る必要がある。

●地域が主体的に、地域運営の参加機会をつくる

・・・ボランティアや市民活動への市民一人ひとりの積極的な参加だけでなく、自治会館の開放や地域イベント、話し合いの場を持つなど、地域が連携するための機会を地域が創出していくことが重要である。

●高齢者支援の推進

・・・積極的に外出するなど高齢者自身の意識も重要であるが、訪問相談の充実や買い物バスや、サービスマンの配布など、困りごとの解決や外出しやすい環境づくりを「市においても継続的に取り組む必要がある。

●子育て支援、小1の壁対策

・・・保育園を利用している子育て世帯が、子どもが小学校にあがると、預かり時間が少なくなるいわゆる「小1の壁」への市民の不安が高い。これに対し、ボランティアを活用した学童保育の充実を進める必要がある。

【 全 意 見 】

- 市民が（積極的に）できること ▲ 地域で協力してできること ■ 行政（市）ができること
- ◆ もっと大きな単位（県国）ができること

★行政運営等に関すること

（市民参画）

- ・何事にも興味を持つ ● ・問題意識を持つ（情報を入手→考える→参加） ●
- ・地域の活動を広報する ▲

（地域資源の効率活用）

- ・公園を活用し廃墟にしない ●
- ・公園に駐車場を（空き家を駐車場に？） ■
- ・A I の利用、アプリを作成しスマホ活用 ■ ・太陽光とセットでタブレットを貸し出す ■

★地域等に関すること

（コミュニティ）

- ・特技を活かしてボランティアに参加する ● ・市民活動に積極的に参加する ●
- ・自治会館を常にオープンにしておく ▲ ・地域ごとのイベントや取組を行う ▲
- ・地域の問題に主体的に取り組む（参加、話し合い、市に請願、陳情） ▲
- ・助け合う、見守る気持ちを持つ ▲

- ・ボランティアを有償のものも検討 ■ ・地域のコーディネーターを養成する ■
- ・図書館や公民館などに老若男女が集まれるオープンカフェなど ■

★環境等に関すること

（都市計画）

- ・駅前を開発を！通勤、観光 ■

（住宅・住環境）

- ・無人化している家を watch ▲

（防災）

- ・防災のアラームを目的によって最初のチャイムを変えて一音で分かるように ■

★健康、生活等に関すること

（健康づくり）

- ・心身の健康を維持する ●
- ・地域の訪問医を設置する ■

（高齢者福祉）

- ・外に出る努力 ●
- ・買い物バスなど高齢者の交通手段を作る ■ ・高齢者や生活困窮者を訪問して困りごとを解決する ■
- ・宅配弁当、訪問マッサージなどリストを作り周知する ■
- ・介護保険の値上げ、サービスの縮小をしない ◆

（買い物利便）

- ・コンビニでの買い物 配達利用 ▲

（地域共生社会）

- ・色々な人がいることを知り理解を深める（子ども、高齢者、障がい者、L G B T） ●
- ・外国人が永住できる法整備 ◆

★教育等に関すること

（教育）

- ・小学校などでボランティア（元々専門がある）人材を活用（語学、スポーツ等） ▲
- ・置き勉OKにする（ランドセル重い） ■ ・学校を誘致する ■

（学童保育）

- ・小1の壁対策に、ボランティアを利用して学童保育の人員拡充 ▲
- ・学童の一時保育をすべてのところで ■

（生涯学習）

- ・自然、文化、歴史に親しめる施設、イベントを企画実施する ■

全体的な意見

●市民の積極的な健康づくり

・・・食生活や健康診査受診、日ごろから身体を動かすことなど、市民一人ひとりが自覚的に健康づくりに取り組むことが必要。また、地域医療の整備や高齢者が参加できる取組の充実など、市民の健康維持のための仕組みづくりを行政等が取り組むことが重要である。

●協働のコミュニティづくり

・・・市民が地域づくりに参加する意識を持ち、日ごろからのコミュニケーションやイベント参加を積極的に行うことが重要。また、地域間・世代間交流のイベントなどの取組を、市においても実施することが必要である。

●移動環境の整備

・・・佐倉市は道路交通網に課題があり、行政における整備が必要である。また近年、高齢者の運転が社会問題化する中で、市民においては自動運転車の導入を考えていくことが必要である。

●AI 活用などによる効率的な行政運営

・・・人口減少にともない、行政・各事業者においても人員及び業務の効率化を図る必要がある。今後に向け、AI の研究開発などへの取組に対し、市民・行政とも関心を持ち、支援を行っていく必要がある。

【 全 意 見 】

- 市民が(積極的に)できること ▲ 地域で協力してできること ■ 行政(市)ができること
◆ もっと大きな単位(県国)ができること

★健康等に関すること

(医療)

- ・医療機関の充実 ■
- ・医療の透明性の確保 ◆

(健康づくり)

- ・健康を意識した食生活 ●
- ・健康診査受診を心がける ●
- ・身体を動かすチーム作り ▲
- ・健康に暮らす情報を発信 ■
- ・健康追及 ●
- ・ラジオ体操への参加 ●

(高齢者福祉)

- ・介護ボランティアを増やす ■
- ・定年のない企業を増やす ◆
- ・高齢者の(担い手としての)活用 ■
- ・遊んで暮らせる老後社会 ◆

★地域等に関すること

(コミュニティ)

- ・(地域運営についての) 要望、意見を出す ●
- ・市内のイベントを楽しむ ●
- ・市の事業や地域の事業に積極的に参加する ●
- ・積極的なコミュニケーション ●
- ・ボランティアへの参加 ●
- ・地域で交流する ▲
- ・世代間交流できるイベント ▲
- ・区、町内会での十分な情報交換 ▲
- ・近隣に住んでいる人の把握 ▲
- ・区、町内会へのサポート ■
- ・公民館など公共施設の充実 ■

★産業等に関すること

(観光)

- ・観光の周遊バスを走らせる ■
- ・ふるさと広場で収益事業 ■
- ・観光地のルート整備 ■

★生活等に関すること

(生活環境)

- ・ライフライン整備 ■

(地域移動環境)

- ・自動運転車 ●
- ・道路の整備 ■
- ・交通網の整備 ■
- ・国道の整備 ◆

(防災)

- ・自然災害を他人事ととらえない ●
- ・災害への備えを進める ▲
- ・防災公園整備 ■

★教育等に関すること

(教育)

- ・教育から就労まで一貫して佐倉でできる環境づくり ■
- ・リカレント教育の整備 ■
- ・外国からの学生誘致・招致 ◆
- ・6 歳まで無償保育 ◆

★環境等に関すること

(自然環境)

- ・自然環境を守る ●
- ・監視、インフラ他 ▲
- ・環境保全 ■
- ・環境問題への監視 ◆

★その他

- ・A I 研究開発(人口減少対策として) ◆

【第2回市民意見交換会を通じて】

志津会場

佐倉市の地域振興やシティプロモーションについて、多数のご意見をいただきました。現状の佐倉市は市外に発信できるような魅力が多数あるという認識の表れとも考えられます。ふるさと応援団など、行政以外の自発的な地域振興をご提案がありました。

また、高齢者になっても住みよいまちづくりという観点で、健康づくりや高齢者の雇用、コミュニティづくりについて具体的な意見を多数いただきました。特に、地域のつながりを強くしていくためには、市民一人ひとりがコミュニティへの意識を持つことや、そのためのひろばやイベントを充実する必要性が意見されました。

空き家や空き店舗など、市内の遊休資源についても問題意識の高まりがみられました。空き家バンクなどのデータベース化のさらなる推進などのご意見をいただきました。

佐倉会場

市政への市民参画やコミュニティ、人口減少時代における行政運営のあり方など、持続可能なまちづくりの観点が全体的にやや強く見られました。

市民参画については、佐倉グレードアップチームの自主的な結成や、市民が市に提案できるシステム推進など、自発的な活動やその推進を支える仕組みづくりについてご意見をいただきました。

コミュニティについてのご意見は、図書館や公民館、自治会館をコミュニティスペースとするような地域のつどいの場づくりについてのものが多くありました。

また、人口減少時代に備えた効率的な行政運営に向け、AIの活用についてのご意見が多数ありました。

【全体を通じて】

第1回の意見交換会においては「幸せとは何か」「家庭・社会において何を目標とすべきか」「より良い佐倉市となるためには何が必要か」について皆様から多くのご意見をいただきました。グループごとに議論していただく中で、参加者の皆様がそれぞれお持ちだった「こうあるべき」というものがより明確化され、市民の皆様が必要とするものが何かを整理することができました。

また、第2回の意見交換会においては、第1回で挙げられた市民が必要とするものの達成のために市民・行政・地域等がそれぞれ何をできるかについて、議論をいただきました。行政が行うべきことが多くある一方、市民一人ひとり・地域が担うべき役割についてのご意見も多くいただきました。

そうした中で、佐倉市の緑豊かな郊外都市としての良さを意識し、外へ発信していくべきという声や、健康に生き生きと暮らしていくための地域づくりに取り組むべきという声が多数寄せられました。

今後、市民との情報共有・シティプロモーションが検討していくべき大きな課題と考えられ、第5次総合計画策定において重要な観点として検討を進めてまいります。